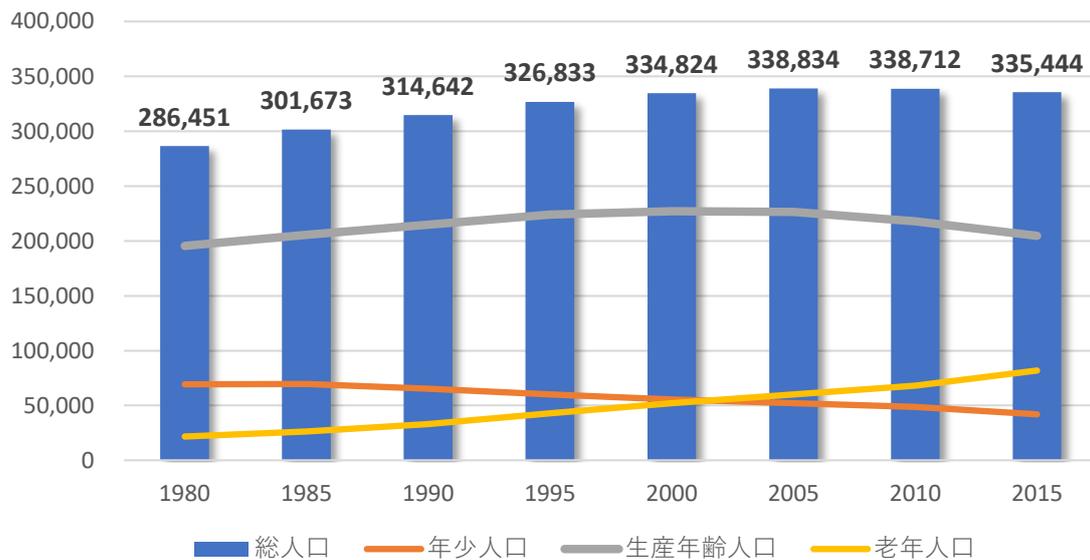


郡山市 統計データについて

①郡山市の総人口の推移

- ◆ 郡山市の総人口は 2005 年をピークに減少傾向にあり、2015 年時点で約 33.5 万人となっている。
- ◆ 2005 年には、老年人口が年少人口を逆転し、以後老年人口の増加が進んでいる。

人口の推移



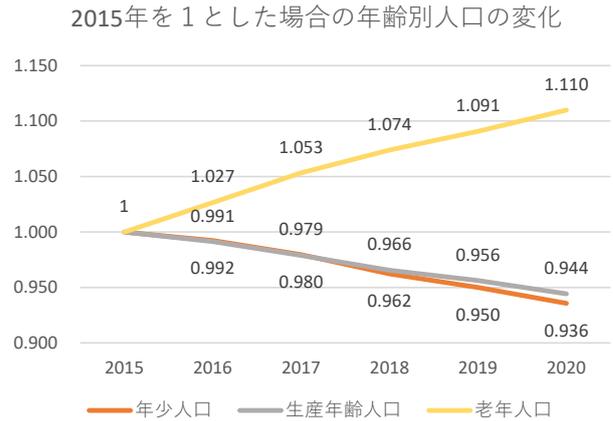
年	年少人口	生産年齢人口	老年人口	年齢不詳
1980	69,332	195,366	21,690	63
1985	69,672	205,726	26,263	12
1990	65,274	214,829	33,127	1,412
1995	60,011	223,870	42,897	55
2000	55,484	227,065	52,131	144
2005	52,002	226,508	60,160	164
2010	48,692	217,826	67,956	4,238
2015	41,865	204,785	81,853	6,941

※年少人口：15歳未満の人口、生産年齢人口：15歳以上65歳未満の人口、老年人口：65歳以上の人口

(出典：国勢調査)

②郡山市の近年の総人口の推移

- ◆ 郡山市の総人口は2016年以降も減少傾向が続いており、2020年10月1日時点で330,358人となっている。
- ◆ 年齢区分別の人口について、2015年の年少人口、生産年齢人口、老年人口を1とした場合、最も減少が進んでいるのは15歳未満の年少人口となっている。

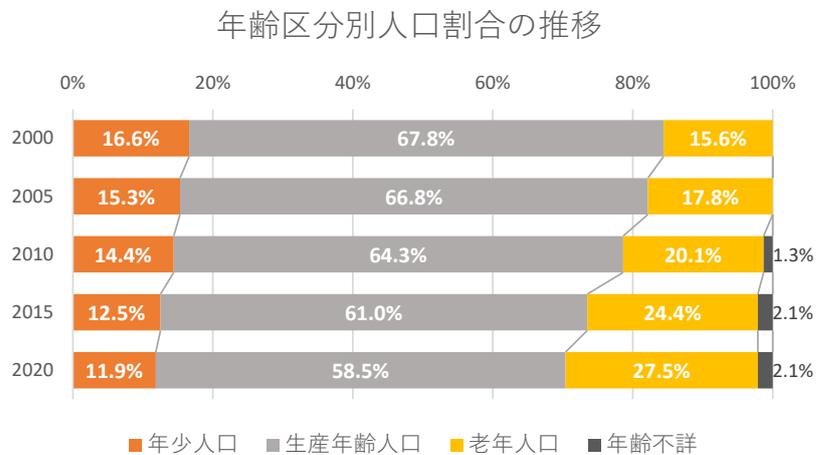


年	年少人口	生産年齢人口	老年人口	年齢不詳
2016	41,546	203,029	84,030	6,941
2017	41,013	200,468	86,214	6,941
2018	40,288	197,737	87,897	6,941
2019	39,776	195,838	89,283	6,941
2020	39,170	193,392	90,855	6,941

(出典：福島県現住人口調査)

【年齢区分別人口の推移】

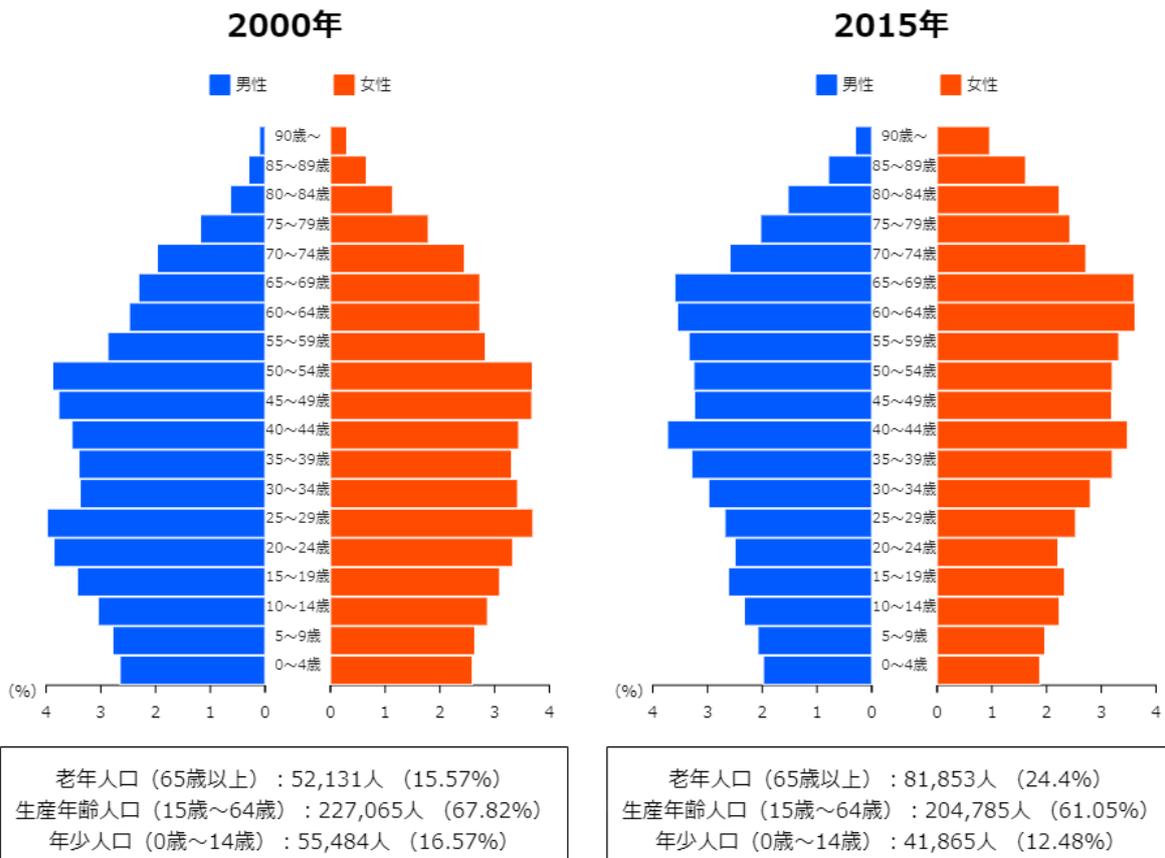
- ◆ 郡山市の年齢区分別人口の推移では、2020年時点で15歳未満の年少人口の総人口に占める割合は11.9%となっている。一方で65歳以上の老年人口の割合は27.5%となっている。



(出典：国勢調査、2020年のみ福島県現住人口調査)

③人口ピラミッド

- ◆ 郡山市の男女別の5歳区分による人口ピラミッドにおいて、2015年時点では60歳～69歳の人口が多くなっている。
- ◆ 一方で、「0歳から4歳」の人口では、2000年当時は17,530人だったが、2015年には12,968人となり、15年間で4,562人減少している。



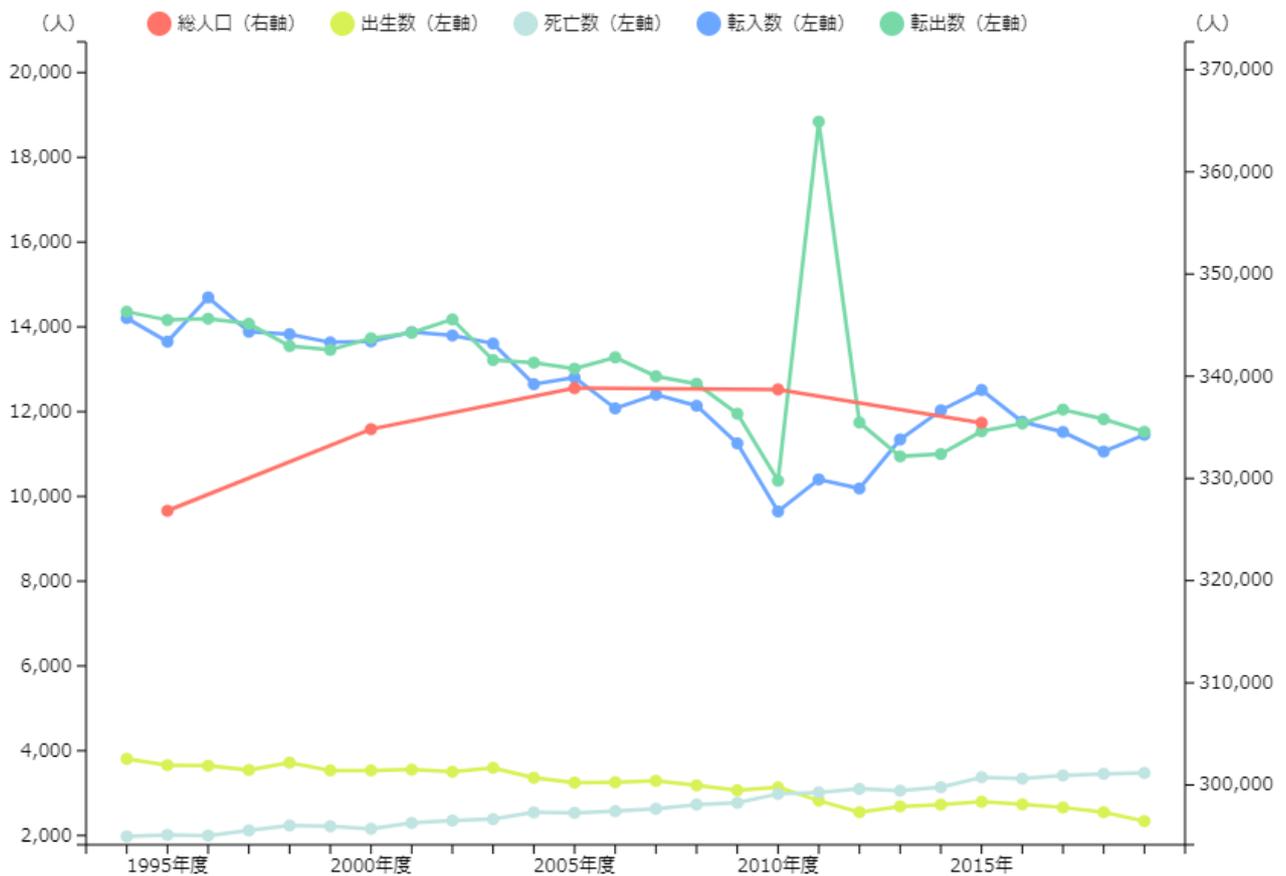
(出典：国勢調査)

④人口動態

- ◆ 郡山市の人口動態について、2011年度、2012年度は震災の影響から市外への転出数が大きく増加している。その後一定の転入数の増加があったが、2016年以降は転入者を転出者が上回る人口の社会減の状態が続いている。また、死亡数が出生数を上回る人口の自然減の状態も2011年度以降続いている。
- ◆ 2019年度は、転出者 11,523 人、転入者 11,453 人、死亡数 3,476 人、出生数 2,339 人となっている。

出生数・死亡数 / 転入数・転出数

福島県郡山市



(出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査)

⑤地区別の人口

- ◆ 郡山市の地区別の人口について、最も年少人口の構成比が多い地区は「喜久田地区」で16.2%、「富久山地区」が13.7%が続いている。一方で、最も年少人口の構成比が少ない地区は「湖南地区」で6.0%、「中田地区」が7.2%となっている。

【令和3年1月1日時点：地区別の人口】

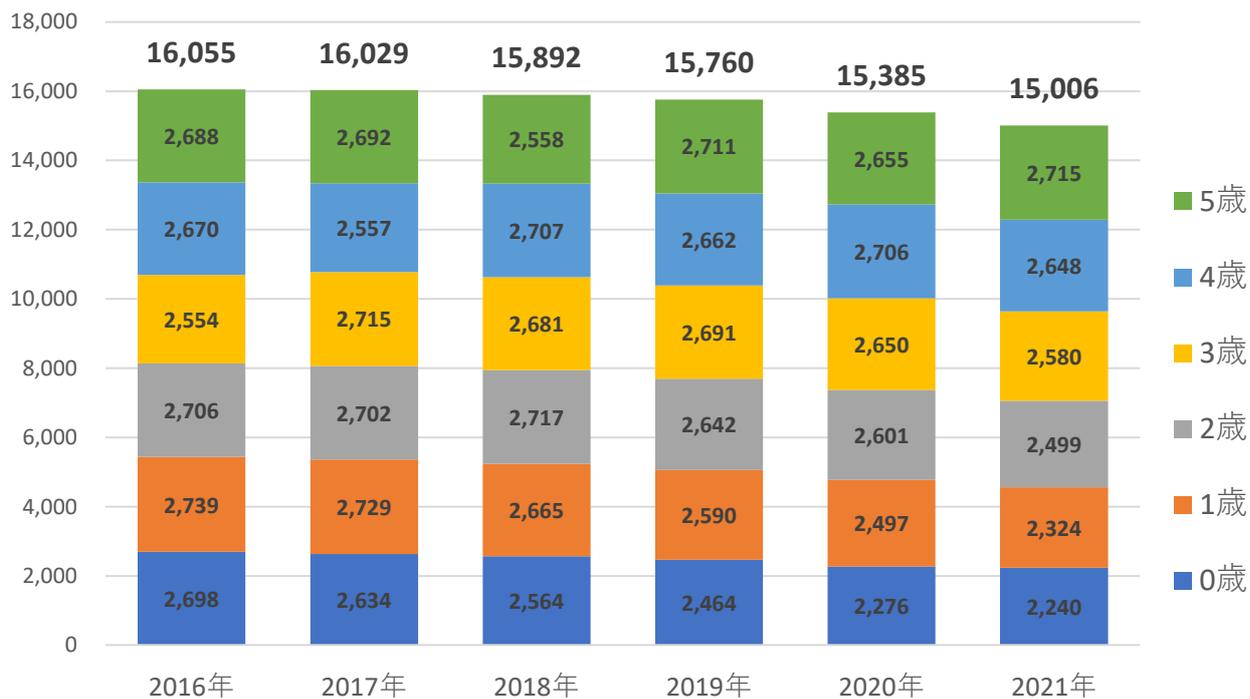
地区	総数	年少人口		生産年齢人口		老年人口	
		(0～14歳)	構成比	(15～64歳)	構成比	(65歳以上)	構成比
全市	321,394	39,764	12.4	196,117	61.0	85,513	26.6
郡山	180,298	22,295	12.4	112,383	62.3	45,620	25.3
安積	33,577	4,416	13.2	20,227	60.2	8,934	26.6
三穂田	4,305	468	10.9	2,295	53.3	1,542	35.8
逢瀬	4,003	360	9.0	2,132	53.3	1,511	37.7
片平	6,271	781	12.5	3,599	57.4	1,891	30.2
喜久田	11,959	1,943	16.2	7,252	60.6	2,764	23.1
日和田	10,152	1,316	13.0	6,221	61.3	2,615	25.8
富久山	36,440	5,007	13.7	23,532	64.6	7,901	21.7
湖南	3,145	189	6.0	1,325	42.1	1,631	51.9
熱海	5,264	398	7.6	2,626	49.9	2,240	42.6
田村	17,069	1,846	10.8	9,707	56.9	5,516	32.3
西田	4,314	414	9.6	2,438	56.5	1,462	33.9
中田	4,597	331	7.2	2,380	51.8	1,886	41.0

(出典：郡山市住民基本台帳人口)

⑥未就学児童の人口

- ◆ 郡山市の未就学児童（0-5歳）の人口について、総数は減少傾向にあり、2016年から2021年の5年間で1,049人減少している。

未就学児童（0-5歳）人口の推移

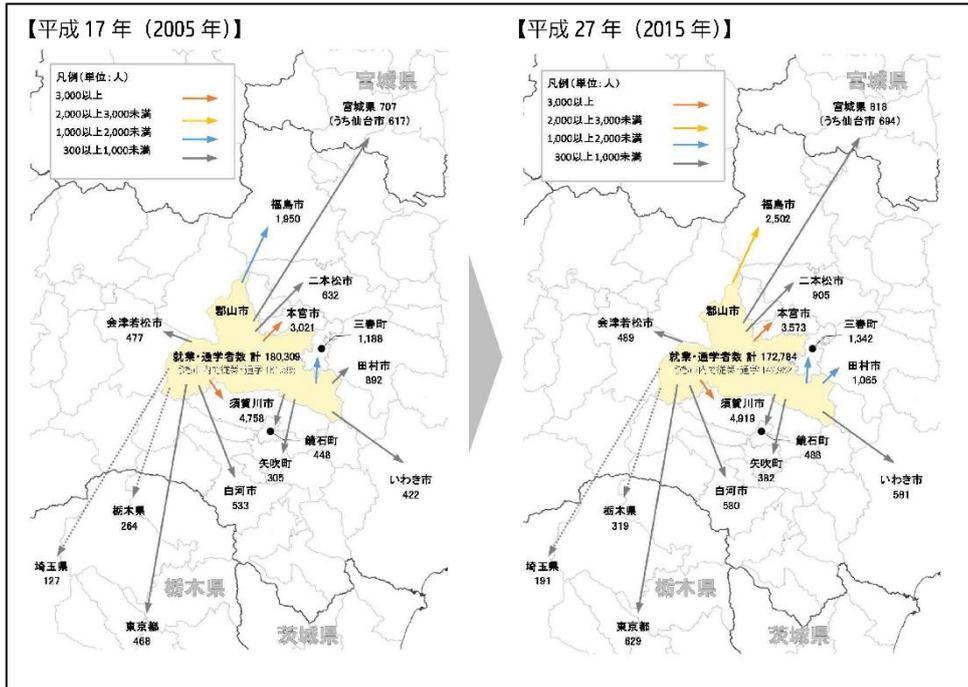


(出典：郡山市住民基本台帳人口)

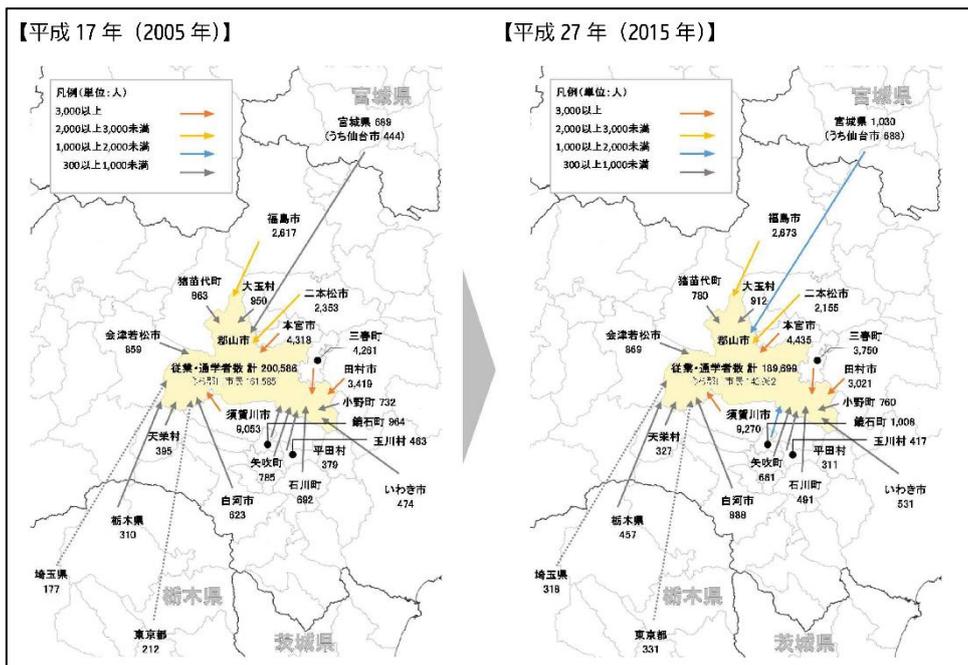
⑦近隣市町村からの流入等郡山への通勤通学流動

- ◆ 2005（平成17）年から2015（平成27）年の10年間で郡山市に住む15歳以上の就業・通学者は7,525人減少したが、市外で従業・通学（流出）する人は4,047人増加している。
- ◆ 郡山市内で働き、通学している人の人数は10年間で10,887人減少し、郡山市内に住んで市内に通っている人の割合は低下（80.6%⇒75.4%）しており、近隣市町村からの流入比率が高まっている。特に白河市や須賀川市、本宮市、仙台市などからの流入者が増加している。

【郡山市民で15歳以上就業者・通学者の通勤・通学先内訳（300人以上を表示）】



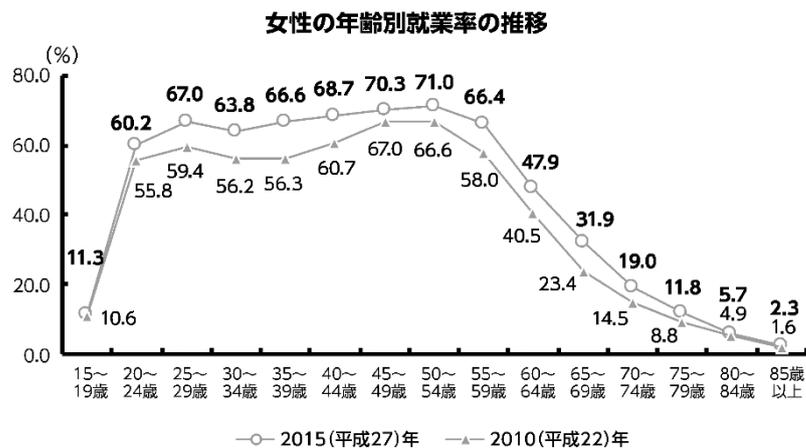
【郡山市で従業・通学する15歳以上の就業・通学者の常住地別内訳（300人以上を表示）】



（出典：郡山市人口ビジョン2020）

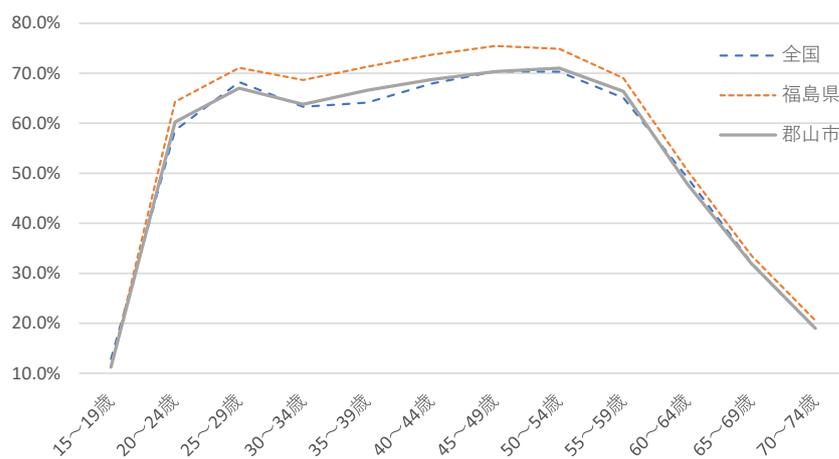
⑦女性の就業率

- ◆ 本市の女性の年齢別就業率は、出産・育児期に落ち込み、再び上昇するM字カーブを描いている。落ち込みの大きい30歳から39歳の就業率は2010年に比べ2015年で上昇し、M字カーブは緩やかになっている。
- ◆ 女性の年齢別就業率は、30歳以降で全国を上回っているが、福島県全体の数値を下回っている。



(出典：第2期郡山市ニコニコ子ども・子育てプラン)

年齢別女性の就業率の比較

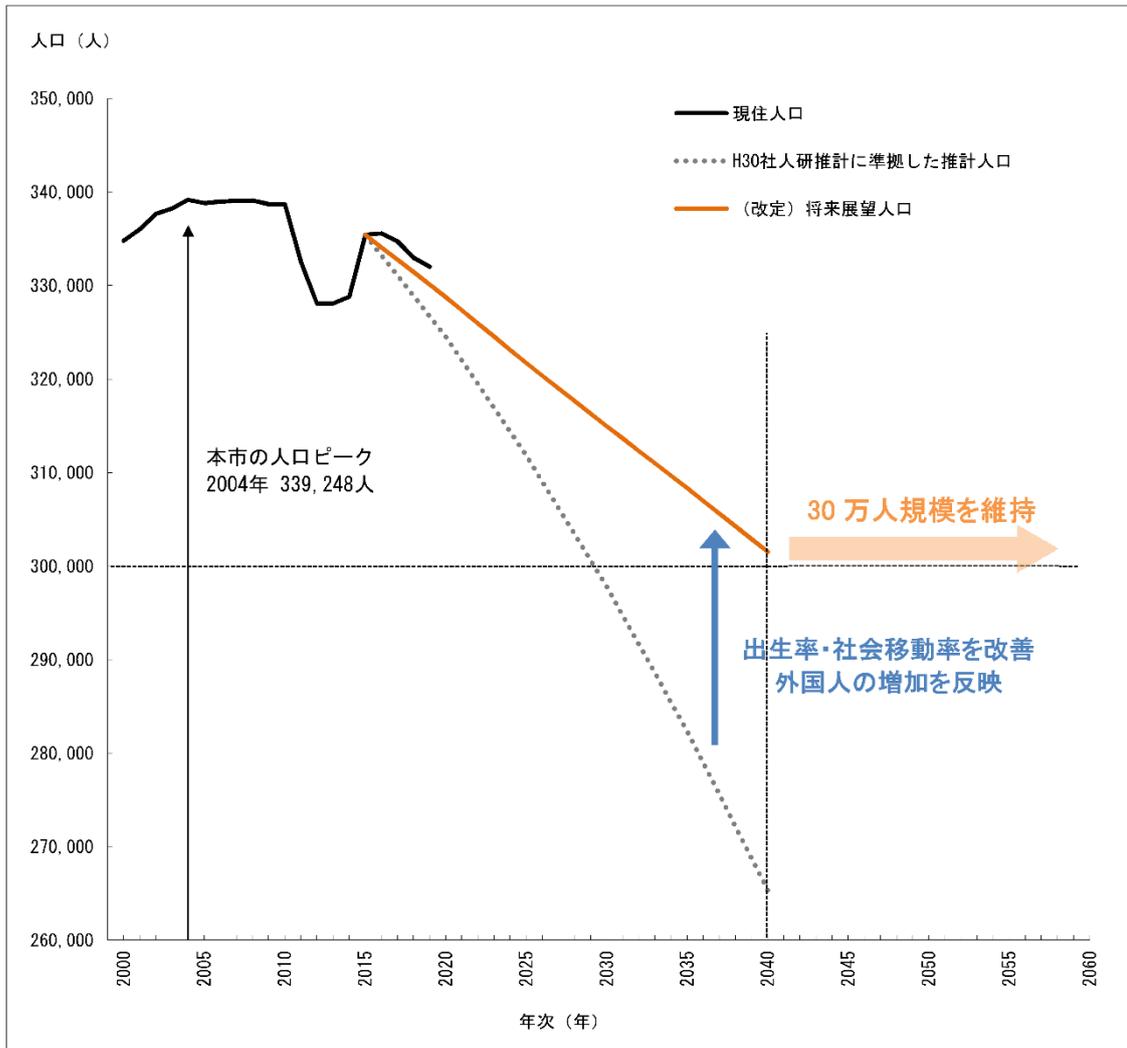


(出典：国勢調査)

⑦人口推計

- ◆ 「郡山市人口ビジョン 2020」において、現在の人口減少が継続すると 2040 年には、郡山市の人口は約 26.5 万人となると推計されており、社会動態の改善、出生率の改善、外国人の増加を反映し、人口約 30 万人規模を維持していくことを目標としている。

推計人口と（改訂）将来展望人口の比較



単位：人

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
H30社人研推計に準拠した推計人口	335,444	324,567	311,868	297,828	282,343	265,374
(改訂) 将来展望人口	335,444	328,792	321,734	314,978	308,357	301,540

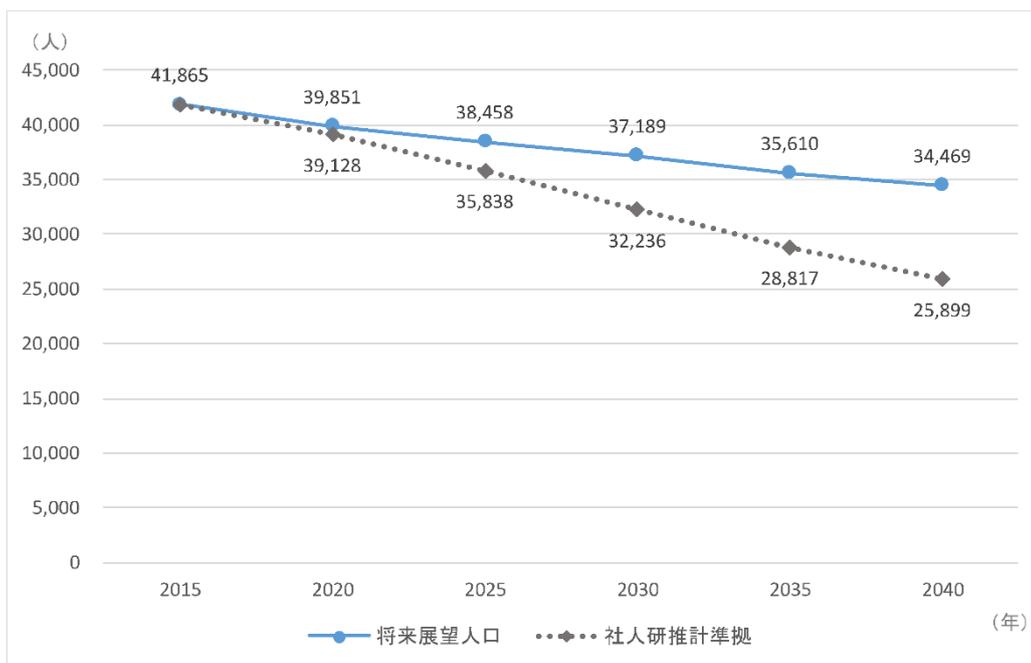
■ 実績値

(出典：郡山市人口ビジョン 2020)

【年少人口の人口推計】

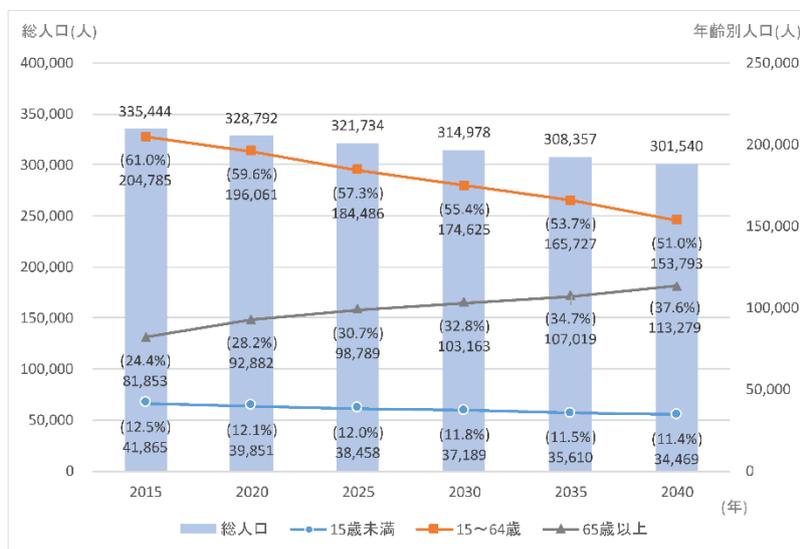
- ◆ 郡山市の年少人口の推計値は、2015年時点で41,865人の年少人口は現状の人口減少が続くと2040年には25,899人と約6割まで減少すると推計されており、郡山市の目標人口では2040年時点で34,469人と約8割までの減少を抑えることを目標値としている。

年少人口（0-14歳）の比較



(出典：郡山市人口ビジョン2020)

【参考：目標とする人口（将来展望人口）の推移】



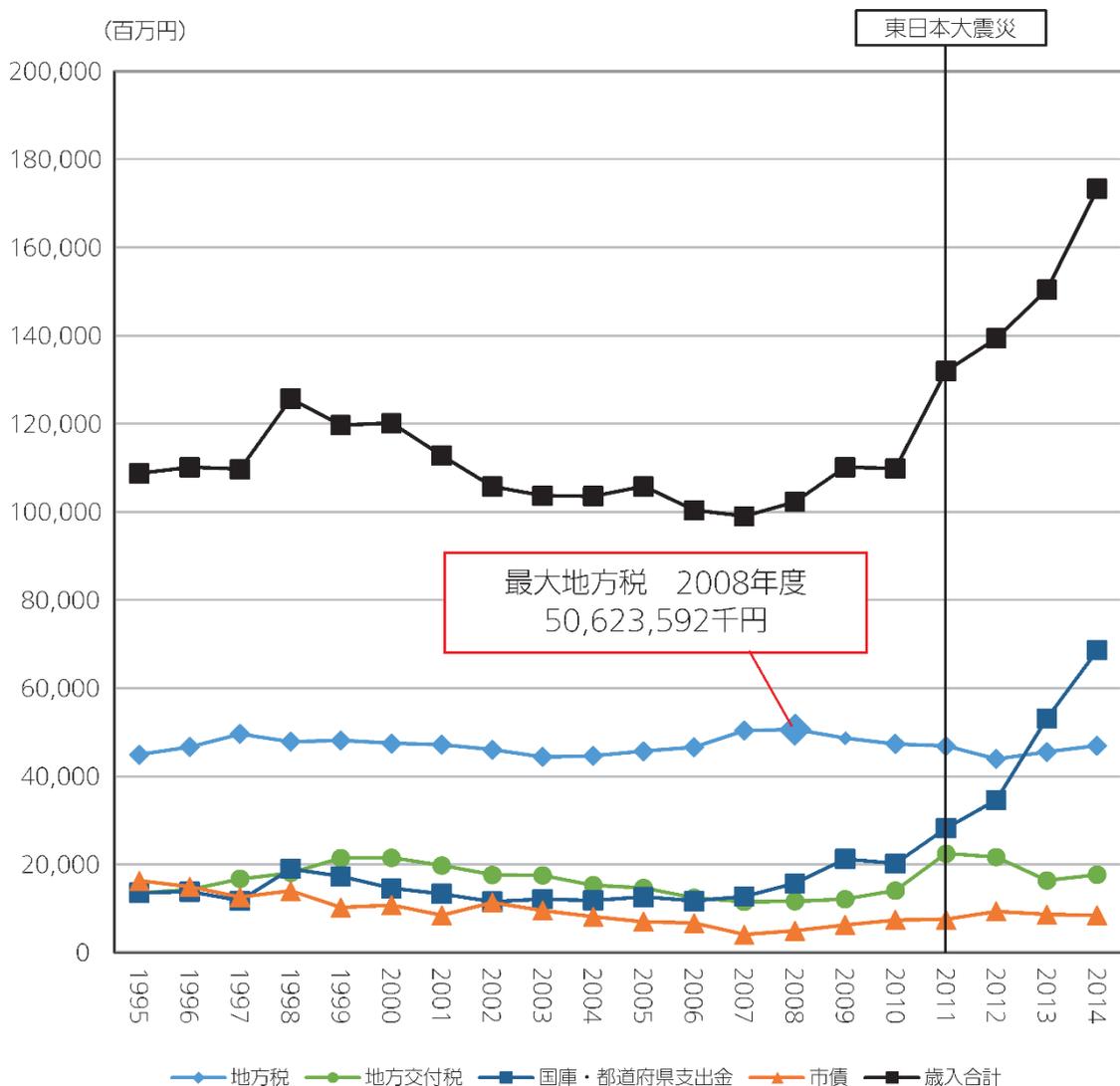
(出典：郡山市人口ビジョン2020)

⑧財政状況

【歳入の状況】

- ◆ 歳入の合計は2011年度から増加傾向だが、これは東日本大震災による国や県からの支出金の増加等が主な要因である。また、歳入の根幹をなす地方税については、2008年度の506億円をピークに減少しており、中長期的には生産年齢人口の減少が見込まれることから、今後の増加は期待できない状況にある。

▼ 歳入決算額の推移（普通会計）

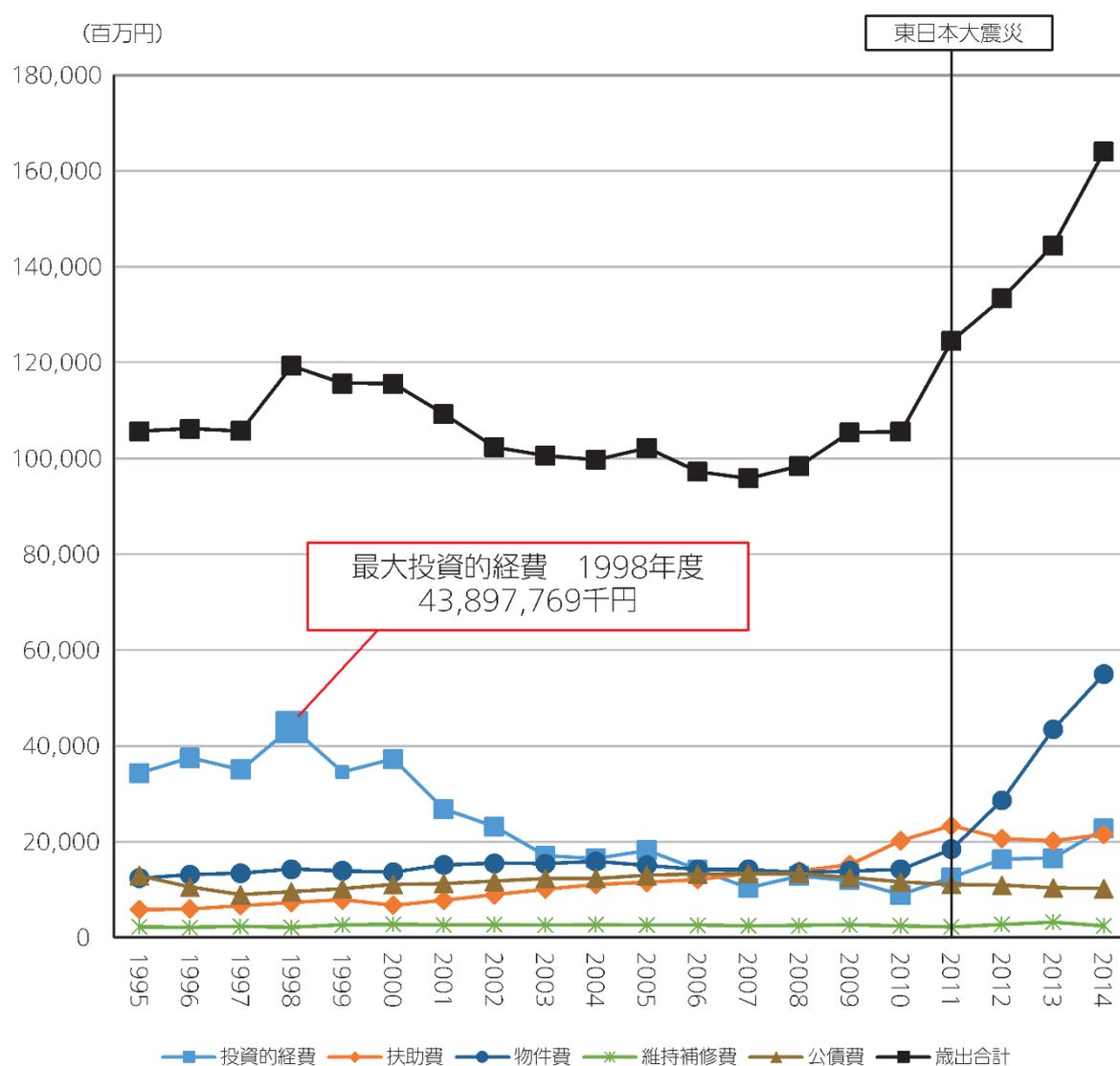


（出典：郡山市公共施設等総合管理計画）

【歳出の状況】

- ◆ 歳出の合計は2011年度から増加傾向だが、東日本大震災による災害復旧や除染による費用の増加等が主な要因となっている。また、公共施設等の新設、改修等を行う際の費用である投資的経費は、震災後は災害復旧等により若干増加しているものの、ピーク時の1998年度と比較すると48.1%減少している。一方、扶助費については徐々に増加しており、老年人口の増加に比例してさらに増えていくと考えられている。

▼ 歳出決算額の推移（普通会計）

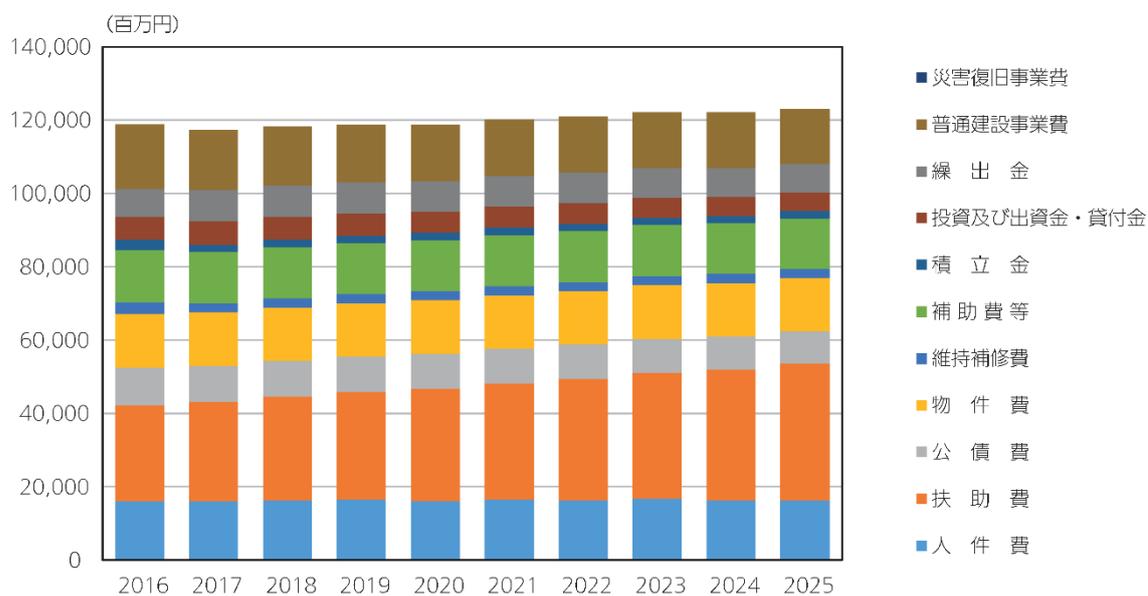


（出典：郡山市公共施設等総合管理計画）

【財政推計について（歳出）】

- ◆ 今後は高齢者の増加に伴い扶助費等の歳出が増加するとともに、生産年齢人口減少に伴う市税等の歳入の減少が予想されることから、公共施設等を現状規模のまま同様の手法で維持していくことは困難な状況となっている。

▼ 今後10年間の財政推計（歳出）



(出典：郡山市公共施設等総合管理計画)